

## フランス語圏舞台芸術・文献目録 (2012)

堀切克洋 (編)

### 1. 著作・翻訳

#### 一般書

青山昌文編『舞台芸術への招待』放送大学教育振興会、2011年

スーザン・ソントグ『サラエボで、ゴドーを待ちながら』富山太佳夫訳、みすず書房、2012年

『悲劇喜劇 特集=ピーター・ブルック』2012年4月号、早川書房

シエング・スハイエン『ディアギレフ——芸術に捧げた生涯』鈴木晶訳、みすず書房、2012年

鈴木晶編『バレエとダンスの歴史——欧米劇場舞踊史』平凡社、2012年

渡辺真弓『名作バレエ 50 鑑賞入門』世界文化社、2012年

ダンス・マガジン編『バレエ・パーフェクト・ガイド (改訂版)』新書館、2012年

長野由紀『バレエの見方』新書館、2012年

マチュー・ガニオ『マチュー・ガニオ——パリ・オペラ座バレエのエトワール』新書館、2012年

芳賀直子『拍手しすぎる日本人 行列してまで食べないフランス人』講談社、2011年

多田鏡子『新オペラ鑑賞事典』有楽出版社、2012年

#### 研究書・評論

植田祐次編『ヴォルテールを学ぶ人のために』世界思想社、2012年

大橋完太郎『ディドロの唯物論——群れと変容の哲学』法政大学出版局、2011年

日本ジョルジュ・サンド学会編『200年目のジョルジュ・サンド: 解釈の最先端と受容』新評論、2012年

森佳子『オフエンバックの「夢幻オペレッタ」: 1870年代パリの演劇文化の変容とミドルカルチャーの誕生』早稲田大学出版部、2012年

佐々木滋子『祝祭としての文学——マラルメと第三共和制』水声社、2012年

永倉千夏子『〈彼女〉という場所——もうひとつのマラルメ伝』水声社、2012年

フェリシア・ミラー・フランク『機械仕掛けの歌姫——19世紀フランスにおける女性・声・人工性』大串尚代訳、東洋書林、2010年

アラン・ケラ=ヴィレジェ『ピエール・ロチ伝』遠藤文彦訳、水声社、2010年

岡室美奈子・長島確・川島健編『サミュエル・ベケット! ——これからの批評』水声社、2012年

京都造形芸術大学・舞台芸術研究センター『舞台芸術 16 マラルメ、ジュネ、パゾリーニをく横断する』角川学芸出版、2012年

伊藤裕夫・藤井慎太郎編『芸術と環境——劇場制度・国際交流・文化政策』論創社、2012年

André Lequeux, *Le théâtre japonais*, Hachette Livre, 2012 [éd. 1889]

Toshiko Mori, *Folklore et théâtre au Japon- Kinoshita Junji et les contes populaires*, Publication Orientaliste de France, [1987] 2011

Nicolas Doutey (avec la participation de Eri Miyawaki), *Notes de Beckett sur Geulincx*, Les Solitaires Intempestifs, 2012

Jennifer Lesieur, *Mishima*, Folio, 2011

Jean-Michel Lou, *Japon d'Amélie Nothomb*, L'Harmattan, 2011

Chantal Aubry, *Yano : Un artiste japonais à Paris*, Centre national de la danse, 2008

Lionel Guillain, *Le théâtre Nô et les arts contemporains*, L'Harmattan, 2009

Jean-Jacques Tschudin, *Histoire du théâtre classique japonais*, Anacharsis, 2011

Aurélien Samuel, *Kabuki : Costumes du théâtre japonais*, ArtLys, 2012

#### 戯曲

エレヌ・シクスー『偽証の都市、あるいは復讐の女神たちの甦り』高橋信良、佐伯隆幸訳、れんが書房新社、2012年

ジャン=ポール・アレーグル『ジャン-ポール・アレーグル戯曲集』岡田正子訳、カモミール社、2012年

コフィ・クワユレ『ザット・オールド・ブラック・マジック/ブルー・ス・キャット』八木雅子訳、れんが書房新社、2012年

ジャン=リュック・ラガルズ『まさに世界の終り/忘却の

前の最後の後悔』齋藤公一、八木雅子訳、れんが書房新社、2012年

エマニュエル・ダルレ『隠れ家／火曜日はスーパーへ』石井恵訳、れんが書房新社、2012年

ファブリス・メルキオ『ブリ・ミロ／セックスは心の病いに  
して時間とエネルギーの無駄』友谷知己訳、れんが書房新社、  
2012年

マラルメ・プロジェクト『「イジチュール」の夜』（上演台本）  
『舞台芸術16』、2012年、pp.127-149

## 翻訳その他

アーサー・オショネシー「マラルメの「ゴシップ」『アシニ  
ーアム』1875-1876」『フランス語フランス文学』第51号、  
原山重信訳、慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会、2010年、  
pp.47-69

ステファヌ・マラルメ「ゴシップ1875-1876『アシニ  
ーアム』（1）」『フランス語フランス文学』第52号、原山重信訳、慶  
應義塾大学日吉紀要刊行委員会、2011年、pp.83-92

——「ゴシップ1875-1876『アシニ  
ーアム』（2）」『フランス  
語フランス文学』第53号、原山重信訳、慶應義塾大学日吉  
紀要刊行委員会、2011年、pp.27-34

——「ゴシップ1875-1876『アシニ  
ーアム』（3）」『フランス  
語フランス文学』第54号、原山重信訳、慶應義塾大学日吉  
紀要刊行委員会、2012年、pp.61-71

——「ゴシップ1875-1876『アシニ  
ーアム』（4）」『フランス  
語フランス文学』第55号、原山重信訳、慶應義塾大学日吉  
紀要刊行委員会、2012年、pp.47-55

モーリス・メーテルランク「閑話～演劇について～」早稲田  
大学演劇映像学連携研究拠点：演劇研究基盤整備、穴澤万里  
子訳、2012年、

URL = [http://kyodo.enpaku.waseda.ac.jp/trans/modules/xoonips/  
detail.php?id=belgium](http://kyodo.enpaku.waseda.ac.jp/trans/modules/xoonips/detail.php?id=belgium)

ジャン・ジュネ「フレッチマンへの十一通の手紙」『舞台芸  
術16』岑村傑訳、2012年、pp.94-109

## 2. 学術論文

### 中世・17世紀・18世紀

黒岩卓, « “Le viel jeu” en mouvement : la configuration rimique et  
métrique des triolets dans les manuscrits du Mystère de la Passion  
d’Arnoul Gréban », *Vers une poétique du discours dramatique au*

*Moyen Âge* (Collection Babeliana 14), H. Champion, 2011, pp.143-  
157

——「聖王の言葉の再編成——『聖ルイ殿の生涯』における  
韻文構築原理に関する覚書」『聖地と聖人の東西』藤巻和宏  
編・勉誠出版、2011年、pp.235-253

——「『アラス受難劇』およびグレバン作『受難の聖史劇』  
における「第一日目」——内容構成と韻文構造の比較」『ヨ  
ーロッパ中世の時間意識』甚野尚志・益田朋幸編、知泉書館、  
2012年、pp.193-208

——, « Notes sur l’apparition des vers isolés dans les imprimés des  
textes dramatiques médiévaux : le cas de la deuxième édition  
Trepperel de Maistre Pierre Pathelin », *Cahiers électroniques  
d’histoire textuelle du LAMOP* (CEHTL), n°4, 2012, pp.41-64

黒岩卓, Xavier LEROUX, Darwin SMITH, « De l’oral à l’oral :  
réflexions sur la transmission écrite des textes dramatiques au  
Moyen Âge », *Médiévales* n°59, 2010, pp.17-40

——, « Ipotesi sul funzionamento della versificazione nella Passion  
de saint André », *Teatro religioso e comunità alpine, Atti del  
Congresso internazionale, Susa — Convento di San Francesco, 14-  
16 ottobre 2010*, Caterina Agus, Giuliana Giai et Andrea Zonato  
(dir.), Centro culturale diocesano di Susa, 2011, pp.182-194

——, « Formes fixes : futilités versificatoires ou système de  
pensée ? », *Vers une poétique du discours dramatique au Moyen  
Âge* (Collection Babeliana 14), H. Champion, 2011, pp.121-14

秋山伸子「市の芝居とオペラ = コミック」『紀要』第53号、  
青山学院大学文学部、2012年、pp.115-127

——, « Mathilde de M<sup>lle</sup> de Scudéry : une lecture croisée avec le  
théâtre de l’époque », *Tangence*, n°96, 2012, pp.51-64

安成英樹「アンシオン・レジーム期フランスの文学に見る身  
分感覚：モリエール『町人貴族』、ラ・ファイエット夫人  
『クレヴの奥方』、ラクロ『危険な関係』」『研究年報』第8  
号、お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター、2012  
年、pp.27-37

梶谷二郎「Corneille の Discours des Trois Unités」『ノートル  
ダム清心女子大学紀要 外国語・外国文学編』第32号、ノー  
トルダム清心女子大学、2008年、pp.80-93

——「Corneille の Horace (2)」『ノートルダム清心女子大学  
紀要 外国語・外国文学編』第33号、ノートルダム清心女子  
大学、2009年、pp.54-70

——「Corneille の Cinna と Grotius の Sophompaneas」『ノー

トルダム清心女子大学紀要 外国語・外国文学編』第35号、ノートルダム清心女子大学、2011年、pp.65-82

——「CorneilleのHoraceについて」『ノートルダム清心女子大学紀要 外国語・外国文学編』第36号、ノートルダム清心女子大学、2012年、pp.90-110

阿尾安泰「18世紀における演劇性の問題」『言語文化論究』第28号、九州大学大学院言語文化研究院、2012年、pp.157-169、2012

高瀬智子「十八世紀フランス舞台芸術の改革者」『ヴォルテールを学ぶ人のために』、pp.144-159

奥香織、「L'idée de "jeu" dans *Le Petit-maître corrigé* de Marivaux」、『関東支部論集』第19号、仏文学会、2010年、p.15-27

——、「Du type au personnage : caractéristiques et fonctionnements d'Arlequin dans les comedies de Marivaux」『演劇映像学2011』第5集、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム、2012年、pp.43-64

ピエール・フランツ「マリヴォーをめぐる その思想と現代性」奥香織訳、『演劇映像学2010』第2集、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム、2012年、pp.93-109

## 19世紀・20世紀

渡辺響子「演劇、この「最も広大で完璧な芸術」——『デゼルトの城』を中心に」『200年目のジョルジュ・サンド』、pp.129-145

三枝大修「『幻想演劇』形式の理論と実践：ジョルジュ・サンド『豎琴の七弦』を中心に」『言語情報科学』第10号、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻、2012年、pp.207-220

中筋朋「フランスにおける俳優訓練術の萌芽——自然主義演劇理論をめぐる」『近現代演劇研究』第3号、日本演劇学会分科会近現代演劇研究会、2011年、pp.30-40

上田和弘「マラルメ『エロディアード／舞台』：その翻訳と解釈をめぐる問題（1）」『大学教育研究紀要』第7号、岡山大学留学生センター、2011年、pp.15-30

江中里子「ペレアスとメリサンド：メーテルランクの修辭法」『昭和女子大学文化研究』第15号、昭和女子大学文化史学会、2012年、pp.27-41

近藤美紀、「La métathéâtralité dans *Ubu roi*」、『青山文学論集』復刊20号、2011年、pp.47-61

——、「La structure du récit dans *Ubu roi*」、『青山文学論集』復刊21号、2012年、pp.78-96

真野倫平「グラン＝ギニョル劇と三面記事」『南山大学ヨーロッパ研究センター報』第18号、南山大学ヨーロッパ研究センター、2012年、pp.13-24

西野絢子「ポール・クロードルのエッセイ「能」とその反響——1930年代以降の西洋における能の受容史の中で」『藝文研究』第103号、慶應義塾大学、2012年

根岸徹郎「詩人＝大使クロードルの誕生」『L'Oiseau Noir』第16号、日本クロードル研究会、2011年、pp.1-18

角井誠「「個性」的表現の探求——トーキー初期におけるジャン・ルノワールの演技論——」『演劇映像学2011』第1集、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム、2012年、pp.55-74

大坪裕幸「アントナン・アルトーと思考あるいは象徴のドラマ：《詩人》アルトーにとっての残酷演劇とは」『立教大学フランス文学』第41号、立教大学、2012年、pp.85-111

堀切克洋「演劇嫌いのための演技論——アルトーからイヨネスコへ」『演劇研究』第35号、早稲田大学演劇博物館、2012年、pp.1-15

森功次「サルトル『聖ジュネ』における不道徳作品の「善用」」『美學』第63号、美学会、2012年、pp.37-48

岡田和也「ベケットを読む女：バスのうえのコトバ：意味と無／意味とコエの言語操作」『研究集録』第150号、岡山大学大学院教育学研究科、2012年、pp.45-55

岡室美奈子「霊媒ベケット——蓄音機としての『オハイオ即興劇』と『ユリシーズ』」『サミュエル・ベケット!』、pp.291-320

垣口由香「歓待の失敗——『ゴドーを待ちながら』と他者の迎え入れ」『サミュエル・ベケット!』、pp.53-74

片岡昇「終わりなき流離——『なに どこ』における構造の不確定性について」『サミュエル・ベケット!』、pp.235-262

川島健「ロンドンのアイルランド人——ベケット『なつかしの曲』／パンジェ『クランクハンドル』をめぐる」『サミュエル・ベケット!』、pp.107-133

木内久美子「演劇の〈今 (maintenant)〉を転倒させること——サミュエル・ベケット『モノローグ一片』における〈捉まえる手 (la main tenante)〉」『サミュエル・ベケット!』、pp.265-290

菊池慶子「ベケット『メルシエとカミエ』における「空

間]:二つの煉獄をめぐって』『フランス語フランス文学研究』  
第101号、仏文学会、2012年、pp.191-205

——「同伴するために——『伴侶』におけるイメージの創造  
と境界の感覚』『サミュエル・ベケット!』、pp.185-209

景英淑「死せる想像力よ想像せよ——球形、アンドロギュヌ  
スのイメージの表象をめぐる考察』『サミュエル・ベケッ  
ト!』、pp.163-183

久米宗隆「具体化できないイメージを求めて: サミュエル・  
ベケットの『カタストロフィ』』『演劇映像学2011』、早稲田  
大学演劇博物館グローバルCOEプログラム、2012年、  
pp.179-195

——「起源なき痕跡としての身体——『あしおと』における  
指標性』『サミュエル・ベケット!』、pp.213-233

鈴木哲平「ベケットにおける<死につつまある言葉>の創出:  
『ゴドーを待ちながら』から『名づけえぬもの』へ』『仏語仏  
文学研究』第45号、東京大学仏語仏文学研究会、2012年、  
pp.73-87

高山典子、「Beckett *Fin de partie* : le metathéâtre et l'œuvre »,  
『関東支部論集』第20号、仏文学会、2011年、pp.15-25

西村和泉「結びのパラドクス——『ゴドーを待ちながら』に  
おける執筆の軌跡をめぐる』』『サミュエル・ベケット!』、  
pp.23-51

藤原曜「ひび割れた声、開かれた瞳——『クラブの最後の  
テープ』における裂開と合一のイメージ』『サミュエル・ベ  
ケット!』、pp.77-105

道木一弘「ベラックアと身体の「痛み」について——サミュ  
エル・ベケットの *More Pricks than Kicks* に関する一考察——  
』『外国語研究』第45号、愛知教育大学外国語外国文学研  
究会、2012年、pp.71-84

宮脇永吏「見える身体のゆくえ——『わたしじゃない』にお  
ける「聴き手」の不在を考える』『サミュエル・ベケッ  
ト!』、pp.135-159

稲村真実「エレヌ・シクスーによる演劇のためのエクリチ  
ュールの試み: 太陽劇団との協働作業から』『立教大学フラ  
ンス文学』第41号、立教大学、2012年、pp.133-148

ヴァンサン・ブランクール、「Image, nom dans le théâtre de  
Bernard-Marie Koltes : Héroisation et iconicité dans *Roberto  
Zucco* », 『明學佛文論叢』第43号、明治学院大学文学会、  
2010年、pp.1-33

——, « Koltes : Un théâtre de la réticence : Paratexte théâtral et

strategic de résistance à la représentation théâtrale », 『藝文研究』  
第101号、慶應義塾大学、2011年、pp.46-65

#### ダンス研究・オペラ研究

市瀬陽子「バレエの起源』『バレエとダンスの歴史』、pp.8-24

森立子「バレエ・ダクシオンの誕生』『バレエとダンスの歴  
史』、pp.25-44

譲原晶子「バレエ・ダクシオンにおける筋立て構成』『演劇  
学論集』第55号、日本演劇学会、2012年、pp.1-19

鈴木晶「19世紀のバレエ』『バレエとダンスの歴史』、pp.45-70

大武彩子「『ホフマン物語』ヒロイン・モデルの検証: ユー  
リア・マルクとドーラ・ハットに焦点をあてて』『音楽研究:  
大学院研究年報』第24号、国立音楽大学、2012年、pp.33-47

森佳子「夢幻劇とその音楽的構造: 19世紀フランスにおける  
大衆の音楽劇の一断面』、『音楽学』第57号、日本音楽学会、  
2012年、pp.94-108

高橋由季子「ロマン派バレエにおける女性ダンサーのイメ  
ージについて』『人文科学論集』第21号、学習院大学大学院人  
文科学研究科、2012年、pp.185-209

鈴木晶「バレエ・リュス』『バレエとダンスの歴史』、pp.71-92

村田宏「『バレエ・リュス』とロシア・アヴァンギャルド演  
劇』『文学部紀要』第47号、跡見学園女子大学文学部、2012  
年、pp.43-59

上杉未央「クローデルとバレエ——『男とその欲望』を手掛  
かりに』『L'Oiseau Noir』第16号、日本クローデル研究会、  
2011年、pp.19-44

深澤南土実「ローラン・プティ《若者と死》: 「生」の象徴  
としての「若者」』『人間文化創成科学論叢』、お茶の水女子  
大学大学院人間文化創成科学研究科、2012年、pp.117-125

安田静、「Nouvelle Danse en France », 『研究紀要』第71号、  
日本大学経済学部、2012年、pp.19-28

——「フランスのダンス』『バレエとダンスの歴史』、pp.213-  
228

——「デュッセルドルフにおける“Tanzmesse”とパリの新シ  
ーズン劇場プログラムから見た欧州のダンス動向』『研究紀  
要』第72号、日本大学経済学部、2012年、pp.53-64

神崎舞「越境するサーカス: ロベール・ルパージュ演出シル  
ク・ドゥ・ソレイユの『トーテム』』、『フィロカリア』第29  
号、大阪大学大学院文学研究科芸術学・芸術史講座、pp.55-67

ジェローム・バル「ジェローム・バルによるジェローム・ベ



ル」越智雄磨訳、『演劇映像学 2010』第2集、早稲田大学演劇博物館グローバル COE プログラム、2012年、pp.149-170  
Sylviane Pagès, « Au risque de l'intime : le butô, une poétique de l'infime », *Repère : cahier de danse*, avril 2012, pp.24-27

#### 文化政策

藤井慎太郎「フランスの対外文化政策」『芸術と環境——その歴史と現在、理念と現実』、2012年、pp.230-243

#### 日仏交流史・日仏比較文化論

高瀬智子, « Voltaire au Japon ou Candide en Extrême-Orient au XXI<sup>e</sup> siècle », *Cahiers Voltaire*, n°9, Société Voltaire et Centre international d'étude du XVIII<sup>e</sup> siècle, 2010, pp.83-90

穴澤万里子, « Maeterlinck et les Japonais », *Textyles*, n°41, Le Cri, 2011, pp.142-148

間瀬幸江「寺山修司におけるジャン・ジロドゥからの影響：ラジオドラマ『大礼服』論」『演劇学論集』第54号、日本演劇学会、2012年、pp.1-21

久野誠「漱石、野田秀樹、ブルーストにおける《異義復用法（アンタナクラーズ）》の使用」『仏語仏文学』第38号、関西大学フランス語フランス文学会、2012年、pp.73-91

北原まり子「戦前日本におけるバレエ・リュス初期作品の芸術的特質の受容：塚塚少女歌劇と日劇ダンシングチームを中心に」『演劇映像学 2011』、早稲田大学演劇博物館グローバル COE プログラム、2012年、pp.225-247

Zaven Paré, « Esthétiques de la manipulation : Marionnettes et automates au Japon », *Gradhiva*, n° 15, 2012, pp.120-142

#### 修士論文

Hanae Mizumoto (水本華絵), « Histoire d'une figure dansée : les dynamiques de l'arabesque » (Université Paris 8, 2011)

Mariko Kitahara (北原まり子), « Picturalisation de la première époque des Ballets Russes (1909-1912) : rideaux peints au proscenium et figures en profil » (Université Paris 8, 2012)

Yasuko Suda (寿田裕子), « Le Groupe de Recherche Théâtrale de l'Opéra de Paris : analyse d'une institution éphémère » (Université Paris 8, 2012)

#### 博士論文

Ayako Nishino (西野絢子), *L'Influence du théâtre Nô sur la*

*synthèse des arts de Paul Claudel* (Université Paris 4, 2011)

森佳子「オッフェンバックの芸術的戦略としての「夢幻オペレッタ」 1870年代パリの演劇文化の変容と「二流劇場」におけるミドルカルチャーの誕生」(早稲田大学大学院文学研究科、2012年1月30日)

久米宗隆「サミュエル・ベケットの演劇作品におけるイメージの形成と変容—ラジオドラマ体験とそれ以降の演劇を巡って」(早稲田大学大学院文学研究科、2012年6月23日)

Sylviane Pagès, *La réception des butô(s) en France. Représentations, malentendus et désirs* (Université Paris 8, 2009)

#### 3. その他(解説・評論・エッセイなど)

浅田彰、鶴飼哲、宇野邦一「ジュネにおける〈政治的なもの〉」『舞台芸術 16』、pp.78-88

石井達朗「ヴィジュアルな憑依と変身——ジョゼフ・ナジ『カラス Les Corbeaux』」『ダンスマガジン』2012年5月号、p.82

石井洋二郎「作家の肖像(2) モリエール」『ふらんす』2012年5月号、pp.54-57

石田英敬「再-魔術化としての文学：熊谷謙介『マラルメによる祝祭』書評」『表象』第6号、表象文化論学会、2012年、pp.267-270

石谷治寛「反ワーグナー的な二一世紀のトータル・パフォーマンスの試み：渡邊守章演出・マラルメ作、《『イジチュール』の夜》劇評」『舞台芸術 16』、2012年、pp.150-153

伊藤洋、鈴木美穂、千川哲生、戸口民也、野池恵子「フランス17世紀演劇の多様性——『フランス17世紀演劇事典』作成をめぐって」『日仏演劇協会会報』復刊第3号、2012年、pp.7-11

岩切正一郎「夢と義務」『悲劇喜劇』2012年6月号、pp.16-17

内田洋一「震災後の『ゴドーを待ちながら』」『悲劇喜劇』2012年3月号、pp.22-23

——「『始まるの場所』で聴いた橋爪功のセリフ」『テアトロ』2012年3月号、pp.24-25

ヨシ笈田「ピーター・ブルックと出会ってから」『悲劇喜劇』2012年4月号、pp.15-18

岡田正子「アレーグ作品との接点—想像力—」『テアトロ』2012年6月号、pp.16-17

岡見さえ「異文化へのバイアスと見事に戯れるソロ——クド

- ウス・オニケク『STILL/Life』『ダンスマガジン』2012年5月号、p.83
- 「未来に向けたダンスの方向性を示す——第15回リヨン・ダンス・ビエンナーレ」『ダンスマガジン』2012年12月号、pp.60-61
- 小田中章浩「フランス演劇2011 カステルッチの問題作、意欲作が続くオデオン・ヨーロッパ劇場とコリーヌ国立劇場など」『国際演劇年鑑2012』、国際演劇協会日本センター、2012年、pp.139-144
- 河合祥一郎「ブルック演劇を理解するカギ」『悲劇喜劇』2012年4月号、pp.12-14
- 喜志哲雄「シェイクスピアを演出するピーター・ブルック」『悲劇喜劇』2012年4月号、pp.6-9
- 北原まり子「パリで観たダンス・ドキュメンタール——《Cédric Andrieux》、《Une semaine d'art en Avignon》」『日仏演劇協会会報』復刊第3号、2012年、p.14
- 児玉竜一他「アルバール・カーン博物館所蔵、日本演劇関係オートクロームおよびフィルムについて」『演劇映像学2011』第4集、早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム、2012年、pp.159-177
- 齋藤公一「書評 Patrick Besnier 著『Alfred Jarry』」『日仏演劇協会会報』復刊第3号、2012年、pp.12-13
- 佐伯隆幸「Beranard Dort, *Théâtre en jeu* (Seuil, 1979) ——最近の演劇書一瞥を兼ねて」『日仏演劇協会会報』復刊第3号、2012年、pp.5-6
- 坂巻康司「書評 佐々木滋子『祝祭としての文学 マラルメと第三共和制』」『日仏演劇協会会報』復刊第3号、2012年、p.12
- 佐藤友紀「ピーター・ブルックのこと」『悲劇喜劇』2012年4月号、pp.19-22
- 「フランク・クラウチックに訊く」『悲劇喜劇』2012年4月号、pp.23-24
- 「ブルックの魔笛——マリー＝エレヌ・エティエンヌ、歌手たちに訊く」『悲劇喜劇』2012年4月号、pp.25-27
- 新藤弘子「浮かび上がる永遠に新鮮な関係性——ジャン＝クロード・ガロッタ『ダフニスとクロエ』」『ダンスマガジン』2012年8月号、p.90
- 鈴木晶「オペラ座の迷宮第11回 オペラ座の黄金時代Ⅰ」『ダンスマガジン』2012年1月号、pp.76-79
- 「オペラ座の迷宮第12回 オペラ座の黄金時代Ⅱ」『ダンスマガジン』2012年2月号、pp.82-85
- 「オペラ座の迷宮第13回 オペラ座の黄金時代Ⅲ」『ダンスマガジン』2012年3月号、pp.82-85
- 「オペラ座の迷宮第14回 オペラ座の黄金時代Ⅳ」『ダンスマガジン』2012年4月号、pp.80-83
- 「オペラ座の迷宮第15回 ガルニエ宮開場Ⅰ」『ダンスマガジン』2012年5月号、pp.76-79
- 「オペラ座の迷宮第16回 ガルニエ宮開場Ⅱ」『ダンスマガジン』2012年6月号、pp.84-87
- 「オペラ座の迷宮第17回 ガルニエ宮開場Ⅲ」『ダンスマガジン』2012年7月号、pp.80-83
- 「オペラ座の迷宮第18回 ガルニエ宮のバレエⅠ」『ダンスマガジン』2012年8月号、pp.82-85
- 「オペラ座の迷宮第19回 ガルニエ宮のバレエⅡ」『ダンスマガジン』2012年9月号、pp.76-79
- 「オペラ座の迷宮第20回 ガルニエ宮のバレエⅢ」『ダンスマガジン』2012年10月号、pp.80-83
- 「オペラ座の迷宮第21回 ガルニエ宮のバレエⅣ」『ダンスマガジン』2012年11月号、pp.78-81
- 「オペラ座の迷宮第22回 バレエ・リュスの時代Ⅰ」『ダンスマガジン』2012年12月号、pp.82-85
- 扇田昭彦「俳句スタイルのオペラ——ピーター・ブルックの『魔笛』」『ダンスマガジン』2012年6月号、p.53
- 高橋信良「書評 鈴木晶編・著『バレエとダンスの歴史』」『日仏演劇協会会報』復刊第3号、2012年、p.13
- 田之倉稔「ノーマンズ・ランドの方へ」『悲劇喜劇』2012年4月号、pp.10-11
- 「パリの芝居の思い出 マリー・ベル」『日仏演劇協会会報』復刊第3号、2012年、pp.3-4
- 長野由紀「ルグリが切り開いた新しい地平」『ダンスマガジン』2012年7月号、p.12-13
- 西堂行人「演劇革命の書——アルトー『演劇とその形而上学(演劇とその分身)』」『悲劇喜劇』2012年12月号、pp.14-15
- 根岸徹郎、宇野邦一、鶴飼哲、山田せつ子、八角聡仁、森山直人「劇場のジュネⅠ ダンスプロジェクト『恋する虜』をめぐる」『舞台芸術16』、2012年、pp.45-58
- 長谷川孝治「生きて在る俳優——ロバール・ブレッソン『シネマトグラフ覚書』」『悲劇喜劇』2012年12月号、pp.18-19
- 林正和「パリ秋演劇シーン——キリスト冒洗、ラテンアメリカの嵐」『テアトロ』2012年3月号、pp.66-68

——「アヴィニヨン演劇祭 2012 —— 新た鳴る現実との関係性の模索」『テアトロ』2012年11月号、pp.62-65

悲劇喜劇編集部「ピーター・ブルック略年譜」『悲劇喜劇』2012年4月号、pp.28-37

堀切克洋（編）「フランス語圏舞台芸術・文献目録（2010-2011）」『日仏演劇協会会報』復刊第3号、2012年、pp.15-29

間瀬幸江「『シャイヨの狂女』（ジャン・ジロドゥ作）初演時の演出ノートより（2）」『演劇映像』第53号、早稲田大学文学学術院演劇映像研究室、2012年、pp.102-120

ジェラルド・マノニ「新しいグラン・バレエの誕生——パリ・オペラ座バレエ『泉』」『ダンスマガジン』2012年1月号、林修訳、pp.35-37

——「比類なき輝き——パリ・オペラ座バレエ『シンデレラ』『オネーギン』」『ダンスマガジン』2012年3月号、林修訳、pp.10-13

——「待望のエトワール任命」『ダンスマガジン』2012年6月号、林修訳、pp.10-16

——「ロミオが帰ってきた！——パリ・オペラ座バレエ『ロミオとジュリエット』」『ダンスマガジン』2012年8月号、林修訳、pp.47-53

——「由良之助@ガルニエ宮——東京バレエ団パリ・オペラ座公演『ザ・カブキ』」『ダンスマガジン』2012年8月号、林修訳、pp.58-61

——「新エトワール誕生！——パリ・オペラ座バレエ『ラ・フィーユ・マル・ガルデ』」『ダンスマガジン』2012年9月号、林修訳、pp.14-16

——「ギレーヌ・テスマーとピエール・ラコット——映画『バレエに生きる～パリ・オペラ座のふたり～』」『ダンスマガジン』2012年10月号、林修訳、pp.64-66

——「絶頂の大エトワール——パリ・オペラ座バレエ 新シーズン開幕！」『ダンスマガジン』2012年12月号、林修訳、pp.32-35

三浦雅士「成熟の時、時の成熟——シルヴィ・ギエム・オン・ステージ 2011」『ダンスマガジン』2012年1月号、pp.12-17

——、シディ・ラルビ・シェルカウイ「あらゆる動きにダンスが潜む——『ゼロ度』から『テヅカ』まで、日本への熱い視線」『ダンスマガジン』2012年3月号、pp.58-63

——「マイヨー、フランスのエスプリ」『ダンスマガジン』2012年4月号、pp.38-39

——、バンジャマン・ベッシュ「プリセツカヤに学んだこと——エトワール・ガラ、そして Love from Paris にこめた熱い思い」『ダンスマガジン』2012年4月号、pp.66-70

——、ベルニス・コピエテルス「私は彼のためにつくられた——マイヨーに我が身を差し出したモンテカルロのミュージック」『ダンスマガジン』2012年6月号、pp.28-33

——、オーレリ・デュボン「ピナ・バウシュの啓示——ピアノに惹かれてバレリーナになった女の子の物語」『ダンスマガジン』2012年11月号、pp.58-64

渡邊守章「再び見出されたジュネ：基調講演『ジュネを読む——その過去と現在』」『舞台芸術 16』、2012年、pp.12-19

——、浅田彰、鶴飼哲、根岸徹郎「再び見出されたジュネ」『舞台芸術 16』、pp.20-29

——「劇場のジュネⅡ ジュネを演出するということ」『舞台芸術 16』、pp.59-71

——、根岸徹郎、森山直人「劇場のジュネⅡ」『舞台芸術 16』、pp.72-77

——、鶴飼哲、宇野邦一、浅田彰「ジュネにおける〈政治的なもの〉」『舞台芸術 16』、pp.89-93

——「〈マラルメ・プロジェクト〉とは何か：解題にかえて」『舞台芸術 16』、pp.122-126

前号に続いて、文献目録をお届けいたします。原則として2012年以内に刊行されたものを収録していますが、復刊第3号（2010～2011年）までに洩れてしまった文献も同時収録しております。会員間の交流に役立てていただければと思います。（H）

#### 【お詫び】

前号に下記の事実誤認がございました。謹んでお詫び申し上げます。

（誤）ステファンヌ・マラルメ『マラルメ全集〈4〉書簡（1）』松室三郎、菅野昭正、清水徹、阿部良雄訳、白水社、2010年

（正）ステファンヌ・マラルメ『マラルメ全集〈1〉詩・イジチュール』松室三郎、菅野昭正、清水徹、阿部良雄、渡辺守章編集、筑摩書房、2010年